



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2013年12月号

「主題」

- 国際会長 : 全ての世界に出て行こう。
 アジア地域会長 : 未来を始めよう、いますぐに。
 西日本区理事 : 志をもって例会に参加し、学びの機会を持ちましょう。
 中部部長 : 長所を活かして生き生きと。
 プラザクラブ会長 : 5年後のプラザの為に今何を。
 強調月間・活動 : 【EMC-M・MCのMはMembership。会議や奉仕の中にも「親睦」を大切にし、メンバーひとりひとりが成長できる風土を育てていきましょう!】

12月例会および今後の予定案内

【12月第1例会(クリスマス例会)】

日時: 12月12日(木)・18:30-
 場所: 「うえの山」・(TEL 052-222-2405)
 費用: 6000円/人

【12月第2例会】

日時: 12月26日(木)・18:45-
 場所: 名古屋YMCA会議室
 出席義務者: 役員(島崎・榎田・後藤)
 1月担当者(高田・万福寺)
 2月担当者(小澤・榎田)

【今後の予定】

- 老人ホーム音楽慰問
 日時: 12月22日(日)・小澤邸 11:30集合
 場所: アミーユ高辻・(開演 14:00)
- クリスマスキャロル
 日時: 12月23日(月・祝)・現地集合 16:00
 場所: JR名古屋駅タワーズガーデン
- 1月第1例会
 日時: 1月9日(木)・18:45-
 場所: 名古屋YMCA会議室
 内容: 「卓話」講師・中村総主事(予定)
- リーダー激励会
 日時: 1月11日(土)・19:00-
 場所: GOKURAKU(ゴクラク)亭(中京大学前)
 費用: 4000円/人
- EMCセミナー
 日時: 1月18日(土)・13:30-
 場所: 名古屋YMCA 3F会議室

11月例会およびその他活動報告

(敬称略)

役員	会員氏名	出席者								
		1	2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	大島 孝三郎	○	○	○	○					
	小澤 幸男	○		○						
書記	榎田 守隆	○	○	○	○	○	○	○	○	○
会計	後藤 猛	○	○	○	○	○	○	○	○	○
会長	島崎 正剛	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	鈴木 誉三	○	○	○	○	○	○	○	○	○
直前会長	高田 廣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連絡主事	万福寺 昭美	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゲスト										
課外活動	①チャリティーラン 11/2 ②会長会議 11/7 ③陶芸教室 11/30									
出席率(%)										100.0
クラブファンド(円) ・当月/累計		0								0
1月号寄稿者・高田(1600-2000字程度)										
2月号・大島/3月号・後藤/4月号・万福寺										

【2013-14年度クラブ役員】メネット連絡員・島崎正剛/副会長。プラザファンド・後藤猛/プリテン委員長。メール委員・榎田守隆
 EMC. BF. EF. JWF・高田廣/YMCA サービス. IBC. YEOP・小澤幸男/CS. TOF・鈴木誉三/広報事業・大島孝三郎/連絡主事・万福寺昭美
 MEC(Extension Membership & Conservation)・新クラブ設立、会員増強と意識高揚

11 月第 1 例会報告

日時:11 月 14 日(木)・18:45-20:15

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 卓話:演題・「我が国の少子高齢化社会」

—和魂漢(洋)才から和魂和才で—

講師:伊藤 晏義氏(元名古屋市衛生局職員)

戦後、経済発展とともに生活が豊かになり、医療の充実は「日本人は死を忘れた」かのように長命になった。事実、2012 年の男性平均寿命は 79.9 歳、女性は 86.4 歳で男性は世界で 5 位、女性は 1 位である。

一方、少子化問題は深刻さを増す。日本の出生率は 2012 年 1.39、因みに主な先進国は次の通り。イギリス 1.98・イタリア 1.41・ドイツ 1.36・フランス 2.00・アメリカ 1.89・韓国・1.24 です。日本がこのまま少子高齢化が進むと、2046 年に総人口は 1 億人を割って 9938 万人、2055 年 8993 万人になると推計され、2045 年には生産年齢者(15-64 歳)1.4 人が 65 歳以上の高齢者 1 人を支えることになる。

今後、少子高齢化を乗り切るには、税と社会保障の見直し、高校生までの援助や高齢者の負担増と若者の負担減、また予防医療を進め健康寿命(介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず、自立して健康に生活できる期間・2010 年は男性 70.4 歳、女性 73.6 歳)の延伸と健康格差の減少などの社会の仕組みを変えざるを得ない。さらに、今後は和魂和才を発揮したい。

600 年頃から 894 年まで続いた遣隋使、遣唐使が仏教と一緒に伝えた医学、医薬は江戸末期まで日本に根づいていた。明治になると西洋医学を受け入れて発展、細菌学者の北里柴三郎、野口英世、ビタミン B₁ を発見した鈴木梅三郎などを輩出した。いわば、「和魂漢(洋)才=中国(西洋)の学問を学び取りながら日本固有の精神を失わないこと(新明解国語辞典)」から和漢和才、日本固有の精神を大切に、我が国独自の医療・工学技術などを生み出して進化させ、新しい社会システムを作る。そのためには、国民はもとより、政界、財界、学界などが協力し合意を得ることが必要である。



2. 連絡事項・島崎

- (1) 12 月第 1 例会(クリスマス例会)
- (2) 老人ホーム音楽慰問
- (3) クリスマスキャロル

以上、詳細 1 面参照のこと

(4) 南山クラブ主催によるリーダー激励会

日時:1 月 11 日(土)・時間・場所未定

(5) EMC 研修会

日時:1 月 18 日(土)・時間・場所未定

3. ワイズ(平口)通信の報告・櫛田

11 月ブリテンに記載した第 2 例会報告の 2 項「平口部長のメールについて」のクラブメンバーへの報告方法を確認する。

11 月第 2 例会報告

日時:11 月 28 日(木)・18:45-19:30

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 連絡事項・島崎

(1) 各種行事の日時、参加者確認

a. 老人ホーム音楽慰問

b. クリスマスキャロル

c. リーダー激励会(南山クラブ主催)

d. EMC セミナー

(2) 1 月第 1 例会

卓話を中村総主事にお願ひする。

(3) 名古屋 YMCA 一部移転

2014 年 3 月 31 日、現在のビル 1F から主要機能を 2F、他は新設した神沢の保育所へそれぞれ移転する。4 月以降の例会はビル 3F の貸会議室を利用する。

2. 11 月分ワイズメール内容報告・櫛田

EMC クラブ担当者への諸報告用紙は会長より連絡済、その他省略。

チャリティラン奮闘記?

第 20 回チャリティランは、11 月 2 日名城公園で開かれた。8 時に着き、後藤、高田さんと 3 人で距離表示板とワイズののぼりを持って外周コースを回り、200m ごとに設置する。東海クラブ、グランパスクラブは、いつもの場所でテントを張り、飲料水やうどんを出す準備に忙しい。



10 時半、開会式は鈴木郁子先生の Hammond オルガン演奏で始まる。グラウンドには 300 人ほどが集まる。来賓の挨拶、トロフィー返還などのセレモニーを終えた後、11 時半に個人レースがスタート、以後 6 人 1 組の

チームレース、コスチュームレースなど約400人のランナーが1.3kmの外周コースを駆け抜けた。



競技の合間に演奏する郁子先生に小澤さん、毎回ご苦労さんです。



手分けして朝方設置したのぼりと距離表示板を無事回収して、ホッと一息のわがクラブのご老体、あとは帰るだけと待機中。本日はよく動き回りお疲れさまでした、今夜はぐっすりお休みください。



陶芸教室・釉薬掛け、絵付け編

10月19日に土を練って作った器物の第2工程、素焼きが終わり、今回は釉薬掛け、絵付けの工程である。11月30日、土岐の佐渡山工房にグランパスの服部さんと私の2人が参加した。炉に入っていた作品を取り出し、19日作成の4人の物を作陶台に並べた。型抜きで作った雑な我が物に比べ、グランパスのお二人は、手のひらで土を細長くのぼしひも状にして筒に巻き付け、指で押さえてなじませながら積み上げる、丁寧な手びねり作りでは、数が少ないのは確か。釉薬の透明釉、織部、黄瀬戸の焼き上がりの色を展示品で確認しながら、先生と相談する彼の姿勢に、織部を刷毛でひと塗りして、透明釉の入ったバケツにドボンと浸ける乱暴なやり方とは心掛けが違う、傑作を予感する。



バリや突起物をヤスリやサンドペーパーで削って形を整える。



本焼きで釉薬が底に垂れて、棚板に付着しないように撥水剤を塗る。



先生に教えてもらいながら釉薬掛けをする服部さん。3月ごろの出来上がり待ち遠しい。

病室の人生模様

久しぶりに病気で入院を言われ、9日間の病院生活を経験した。身内や知人の見舞いで最近の病室の様子は知ってはいたが、自らカーテンの中で横たわるとは思いませんでした。最後の入院は、扁桃腺の切除で、かれこれ30年ほど以前の事。風邪だ、血圧治療だ、白内障の手術だ、歯の治療だと頻繁ではないが、受診はしていましたが、文章にすると頻繁のようですが、ここ15年間のことですから、年齢からすると厚生省から表彰されないまでも、医療費の節約には貢献していたという自負はあります。ともかくも管を付けての本格的な患者生活はひさしぶりでした。

私の入院していた病室は6床の大部屋。新しい建物ではない。1階のナースステーションを通過して左右に部屋や洗面やトイレが並ぶ真中廊下の突き当りから一つ手前の部屋。突き当り右の6床の大部屋には退院まで患者はこなかった。9日間も大部屋の6床の病室に寝ていると、入れ代わり立ち代わり患者が入退院して、交代する。延べ8人。外科の医療技術の進歩のため。私の場合もそうだが、穴治療。腹への穴。口。肛門。切開をする手術は私の入院していた病室では一人もいなかった。入院や手術の経験者は、わがクラブでは多いために、いろいろ書いても釈迦に説法(?)と思われ、病室を退院された患者さん達の家族の会話から推測される人生模様に興味を持ちネタにします。なに

せ痛くて退屈な1日。仕事上で携帯電話は不可欠の為に持ち込んでいましたが、マナーモードの着信通知があっても、穴とはいえ胆嚢を切除した関係で2本の管と1本の点滴を装着した上に、くしゃみや咳は激痛が走る状態で、着信があっても動作は緩慢。自然とベッドに寝ている時間が長く、聞くとはなしにカーテン越しに家族の会話が聞こえてくる。

私が手術をして3日目に退院された80代の男性は、過去にガンの手術をしてその後の検査で再入院。年齢からして手術は負担であるし、飲み薬の治療の方がいいということで、医師から説明をご夫婦で受けていて、息子さんが医者らしく、息子さんに相談をして治療薬の事を確認をと薦めていた。元気に退院。

その後、そのベッドに入院してきた患者は70代の男性で、ご夫婦の会話で健康保険の医療費の事で患者であるご主人が確信ありげに話したところ、奥さんの方がより詳しくて、一言でご主人の鼻っ柱がへし折れた。どうも男性はいいかげんに発言をする傾向があり具体的な内容になると確信が崩れるのは、どこの家庭でも起こっている風景と納得。

午後2時頃ベッドでうとうとしていると廊下の方から、看護婦に案内されて年配者らしき大きな声の男性が、病室に入ってきた。他にハキハキした若い声の男性も一緒に、親子にしては会話が他人行儀で丁寧な言葉遣いに不思議な違和感を覚えながら、会話をきいていると、入院は息子の方でヘルニアの治療の入院らしい。暫く親子で入院に伴っての諸事の確認をしている様子。やがて主治医が来て状態の説明や手術に関する詳細や同意の事を、事細かく説明をする。昨今の医療訴訟の背景に、医師も大変と思う。父親は60代後半で息子は30代半ばかと推測。父親が妙に甲斐甲斐しいのが気にかかる。翌日に息子は検査で、3日目の午前中に急遽手術が早まり、父親の立ち会いに連絡がつかず、そうこうしているうちに絶妙のタイミングで父親が現れた。予測がついてきたとのことで親子に深い意志の疎通のようなものを感じた。会話の内容から父親との二人暮らし。母親は、10年程前にガンで他界した様子。その様子は、翌朝に集中治療室から病室に戻って、父親から息子に語られた。随分わがままな母親だったらしく、名古屋市大に入院の折に、病床でいちじくが食べたいというので名古屋市内の店舗やデパートを5月に捜し歩いてやっと見つけた。決して豊かではなく、1個500円を3個求めて妻に食べさせて、「うまいか」と問うたら「うまくない」との返事に涙がこぼれたと、病床の息子に語っていた。息子は無言で聞いている様子。父親が記憶を紡ぎ、思い出を息子に静かに語っていたのは印象に残る。最後に「帰ったら、いいだしをとってうまい茸汁を作ってやる」と伝えて、父親や病室を後にした。

病室は治療をするところでもあるけれど、ゆっくりとした時間のある場所でもある。面とむきあって、夫

婦や親子が過去の思い出を共有し思う場所でもある。日常ではなかなかこんな時間は照れくさくてつくるとは難しいが、病気という状況が、優しさや思いやりとなって、会話の後押しをするのかと、つくづく素直になることは難しいのかなと考えた。
(島崎 正剛)

聖書の言葉

【あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るいですが、もし、目が悪ければ、あなたの全身が暗いでしょう。それなら、もしあなたのうちの光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう。だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神に仕え、また富にも使えるということはできません。
(マタイの福音書 6. 21-24)】

【『主イエスは、私たちの心の目、すなわち理性を曇らせてしまうものは、マモンつまり富・金銭だと断言された。拝金主義(マモニズム)という偶像崇拜である。マモニズムに陥ると人は目がくらんで、真実を見抜くことができなくなってしまう。・・・理性は本来、神を愛し隣人を愛するという目的のために、正しい認識を得るようにと与えられた賜物であるが、欲に目がくらんだ人は、その理性をウソでごまかすための屁理屈を組み立てるために活用するようになる。』以上の解釈は、ある教会牧師のブログを引用しました。】

【11月19日、中日新聞の読書欄に載った投稿川柳が面白い。「テレビ見て謝罪覚えた三歳児」寸評には、食品偽装で続いた謝罪会見。三歳児にまねられるとの皮肉が効いている、とある。食品偽装は大阪のホテルを皮切りに、他の一流ホテル、老舗旅館、大手百貨店、高級レストランが続々と謝罪会見で「誤表示でした」と頭を下げる様子をテレビで見ながら、ミシュランガイドに載った店までかど呆れる。国産霜降り肉で通用する加工牛肉の別名は、牛脂注入加工肉(インジェクションビーフ)と呼ばれ、豪州産やニュージーランド産の赤身肉に和牛の脂や調味料、とろみを付ける添加物を数百本の注射針で機械注入する。値段は100g400円、国産霜降り肉は1500円(11月10日付中日新聞)、単純計算で儲けは4倍になる。この出来事以前には、レール幅が基準値を超していたのに補修せず、さらにデータを改ざんした鉄道会社、暴力団関係者への融資を放置していた銀行など、企業の倫理意識の低下は目に余る。欲に目がくらみ、「誤表示」「知らなかった」とウソで逃れようとしているトップの姿は見苦しい。「お・も・て・な・し」などと悠長ことを言っている場合ではない。最後に我が落選作を1句、「エセエビと呼ばれ悲しきロブスター」。】